



奈良県御所市に所在する。墳丘長238mの前方後円墳。奈良盆地西南部地域では最大の規模を持つ。後円部に南北二つの埋葬施設があり、南側の埋葬施設は、長持ち型石棺を内蔵する竪穴式石室である。盗掘され副葬品は殆ど残っていなかった。

1950年の発掘調査で玉類や鏡・甲冑片などが、出土している。埋葬施設の上面に直弧文を施した大型の家形埴輪や高坏形埴輪、それを方形に取り囲む円筒形埴輪と靴（ゆき）・盾・甲冑など武器形の形象埴輪、その前面に家形埴輪が配置されていた。

前方部には2基の埋葬施設があり、11面の鏡（現在所在不明）と木棺、前方部の張出し部でも埋葬施設が確認されている。築造年代は中期前半（5世紀前半）と考えられる。

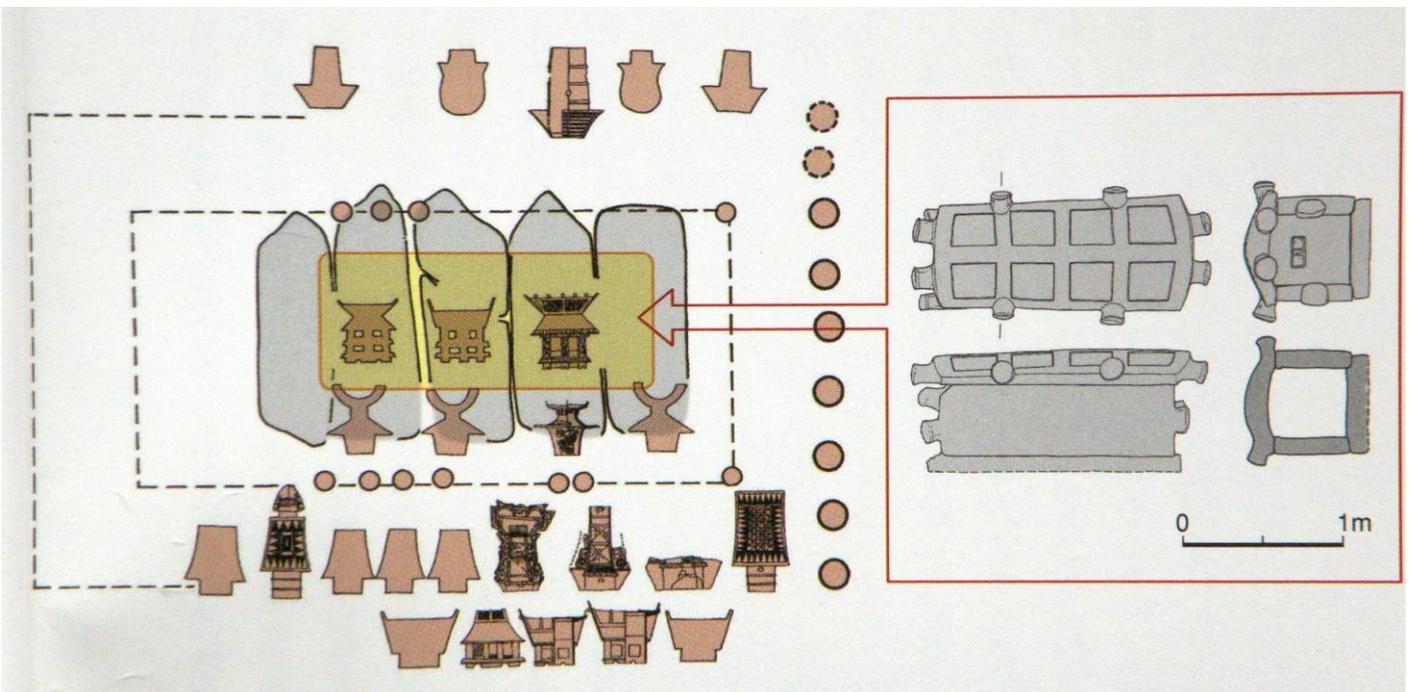
（橿考研博物館 坂 靖 氏）

室宮山古墳出土 形象埴輪



橿原考古学研究所附属博物館 所蔵

室宮山古墳 後円部南側石棺・埴輪 配置図



やまとの地宝展 より

新泉社「葛城の王都 南郷遺跡群」より

古代の主要交通路と葛城四邑

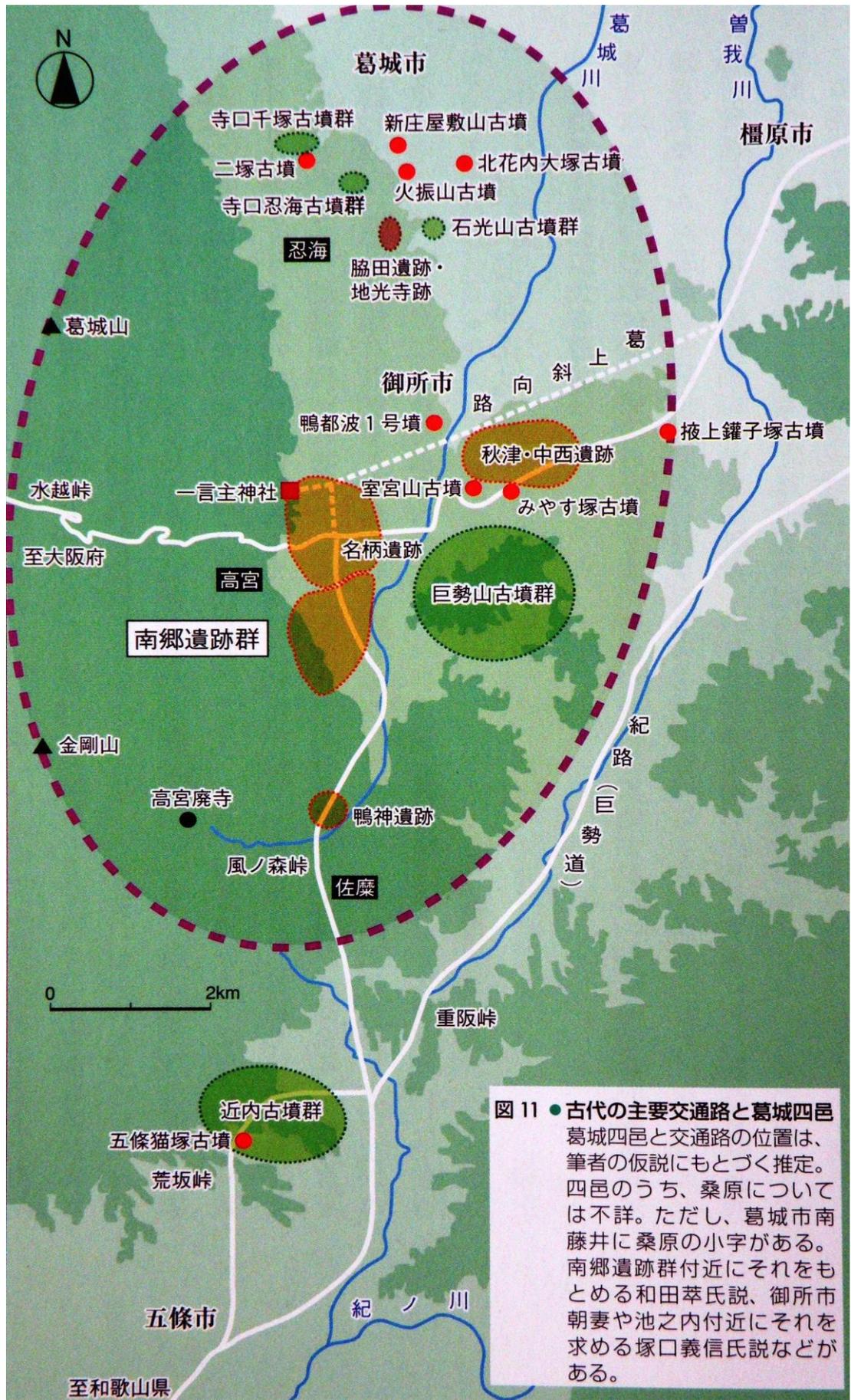
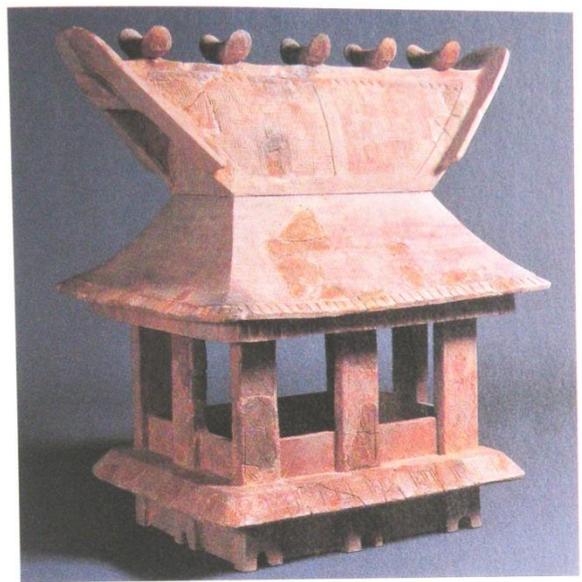
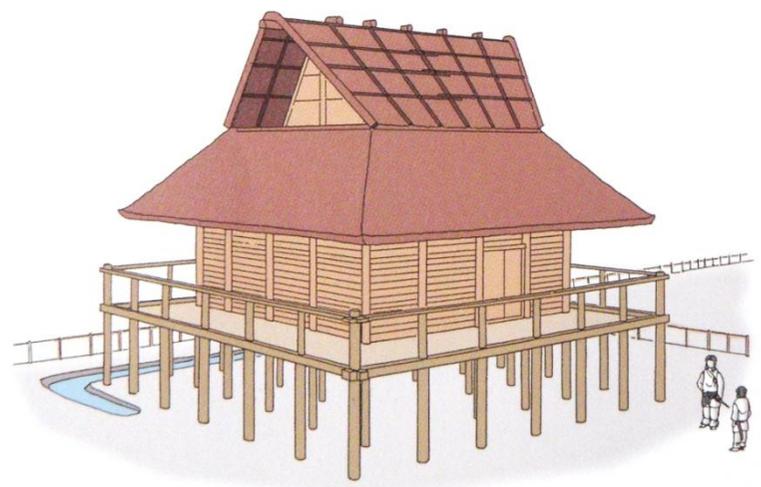


図 11 ● 古代の主要交通路と葛城四邑
 葛城四邑と交通路の位置は、筆者の仮説にもとづく推定。四邑のうち、桑原については不詳。ただし、葛城市南藤井に桑原の小字がある。南郷遺跡群付近にそれをもとめる和田萃氏説、御所市朝妻や池之内付近にそれを求める塚口義信氏説などがある。

南郷 極楽寺ヒビキ遺跡
王の高殿



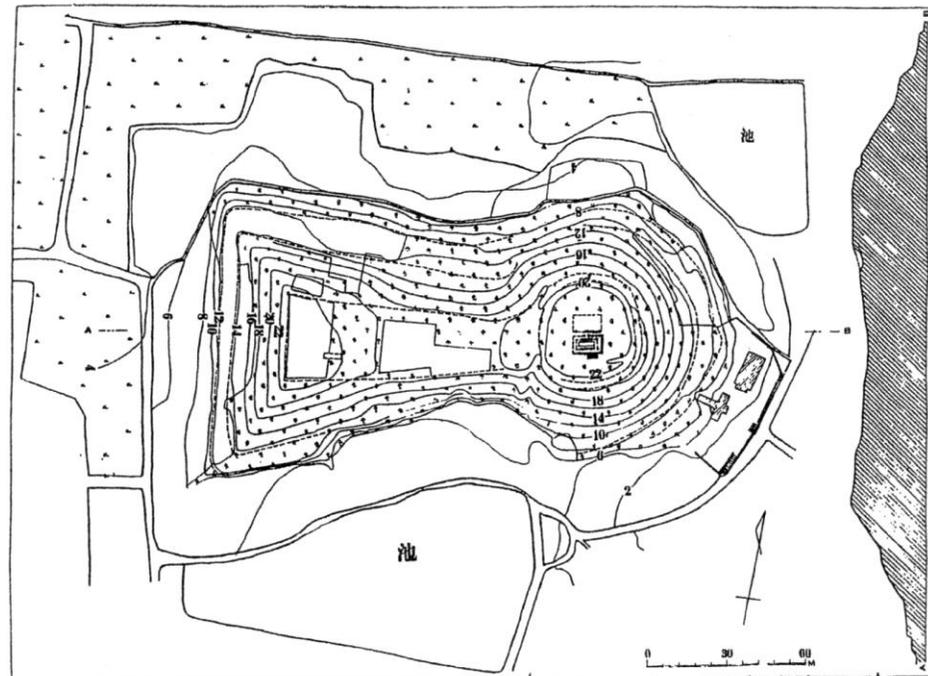
南郷大東遺跡
王の祭殿



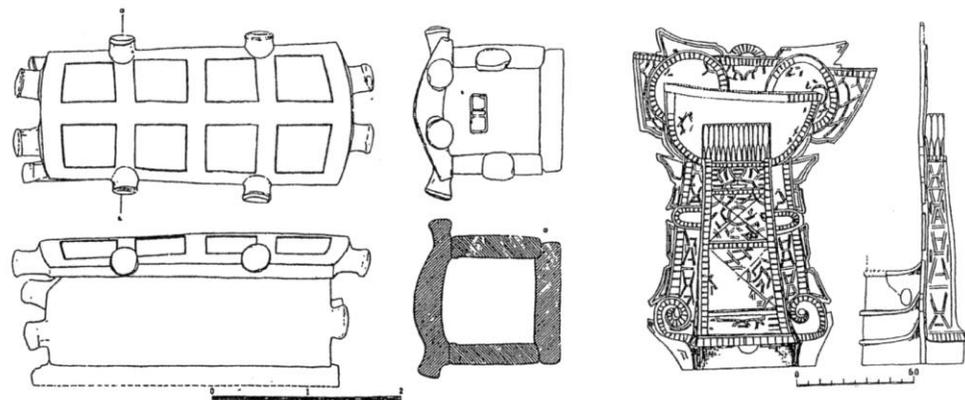
葛城地域における大型古墳の編年

	埴輪	馬見北	馬見中	馬見南	新庄	室・国見山
300年	1期			新山		
350	2期	島の山	佐味田宝塚 巢山			
400	3期		ナガレ山 池上 乙女山 新木山	築山 コンピラ山		室宮山
450	4期	川合大塚山			屋敷山	罐子塚
500	5期	城山		狐井城山	北花内大塚 二塚 平林	200 0m

御所市室宮山古墳（室大墓）

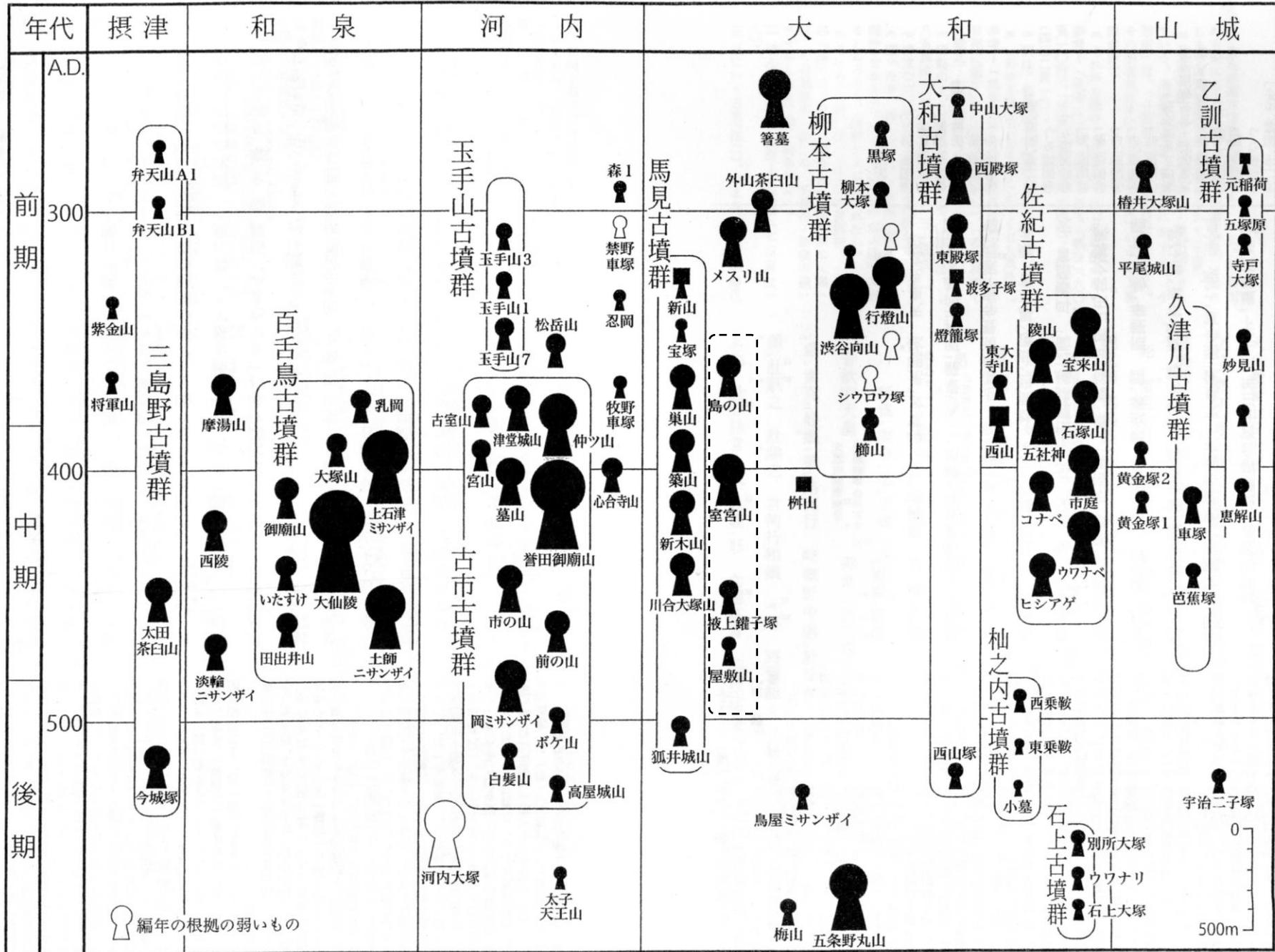


墳丘測量図



長持形石棺

鞍形埴輪



畿内における大型古墳の編年